



佐々木 味津三

SASAKI Mitsuzo

代表作

「葦毛の馬」(1918年)
 「呪わしき生存」(1921年)
 『直参八人組』(1928年)
 『右門捕物帖』(1928年)
 『謎の人形師』(1929年)
 『旗本退屈男』(1929年)
 『青春群像』(1933年)

※『右門捕物帖』『旗本退屈男』はシリーズ化され、多数映像化。

活動略歴

1896年 本名・光三。北設楽郡設楽町津具生まれ。
旧制愛知一中（現：愛知県立旭丘高等学校）に入学。
 1914年 小説『呪わしき生存』を菊池寛が評し作家として認められる。
 1926年 窮乏時代援助してくれていた長兄が死去。弟妹3人と遺児5人の養教育、兄の多額負債をも引き受ける。稼げる大衆小説へ転向し、初の中篇『直参八人組』を発表。
 1928年 『右門捕物帖』を発表、好評につき連作。
 1929年 『旗本退屈男』を発表、好評につき連作、映画化。
 1934年 急性肺炎のため37歳で没。

参考・出展元／設楽町公式ホームページ 津具文化展示センター
<https://www.town.shitara.lg.jp/soshiki/13/1251.html>
 『落葉集』佐々木克子1969年

SASAKI Mitsuzo (1890 - 1972/ Genre ; Classic literature, 'Taishu bungaku' (popular literature)),
 He switched from being a Classic literature novelist to a 'taishu bungaku' (popular literature) novelist after being in debt due to the death of a relative.
 His 'taishu bungaku' novels were very well received and he became a top 'taishu bungaku' novelist, but he died young from overwork.

監修/山下達治氏(あいち文学フォーラム代表)

ジャンル / 小説

Novelist

名古屋市収蔵の資料

／佐々木味津三

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to Sasaki Mitsuzo in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.



←佐々木味津三の33回忌に際し、妻の克子がまとも関係者に私家本として配布したもの。寄贈主への小包状態のまま保存。克子からの手紙も同封されていた。



↑妻の克子からの葉書。



↑そうそうたる作家名の並ぶ「文藝春秋」のなかに佐々木味津三も肩を並べる。



←佐々木味津三追悼号の「衆文」。

上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[文化のみち二葉館](#)までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。